

## これぞ「音楽派」の象徴的音質。 ハーベスの伝統の見事な結晶

**菅野** 最後はスピーカー・システムで、イギリスのハーベスのスーパーHL5。久しぶりにハーベスのシステムを聴きましたが、やはりハーベスはハーベスだと思ふと同時に、より一層の洗練度が聴けましたね。このHLシリーズ、従来は2ウェイを採用していたわけですが、さらに10kHz以上にスーパー・トウイーターを加え、3ウェイのシステムになっているわけですね。20センチのウーファー、2・5センチ口径のトウイーター、その上に2センチのスーパー・トウイーター。そういう変化がある最新のハーベスです。

**小林** 昔のHL5やHLコンバクト、あの音のイメージはそのまま、なおかつすべてが新しくなっていますね。クリアになって。  
**菅野** 本質はそのままに、洗練されましたね。  
**小林** 前のHL5も、ピアノなどは、どんなにダイナミック・レンジが広くても完璧に再生したので驚いたんですが、これもピアノが

すごく力があっていいですね。それから、この大きなのにオーケストラは堂々とした雰囲気がありますし。

**菅野** これはスピーカーづくりのノウハウを蓄積してきた成果でしょう。それから、そのアラン・ショーという人がロイ・ハーウッドからこのハーベスを引き継いだんですが、ノウハウを実にうまく受け継いでいて、決してドラステイックな変更を加えないで、長年のハーウッドのやつてきた仕事の延長線上で自分の新しい技術を入れていった。そういう意味では、これはスコティッシュですが、やはりイギリス人らしい、伝統を大事にする開発姿勢ですね。私たちがびつくりさせるようなことはないけれど、ああやつぱりハーベスだと思わせながら、しかし確実にブラッシュアップはなされている。

**小林** どの音を聴いても居心地がいい。本当に音楽の中へすつぱりはまり込んでしまうような、そういうタイプの音を再生しますね。  
**菅野** 僕もちよつとこれを聴くまで、スーパーHL5になってどうかという一抹の不安



### ●スピーカー ハーベス スーパーHL5 ¥209,000(1本)

●形式：3ウェイ・フロント・バスレフ型 ●ウーファー：200mmコーン型、トウイーター：25mmアルミニウム・ハード・ドーム型、スーパー・トウイーター：20mmチタニウム・ハード・ドーム型 ●最大入力：150W(スロウラム)  
●周波数特性：40~24,000Hz ●能率：86dB ●インピーダンス：8Ω ●大きさ：323W×635H×305Dmm ●重さ：16.8kg ●仕上げ：チェリー ●問合せ：045-845-7639(エムスラスコンセスト)

はあつたんですが、本当に安心しました。やはりこの薄板のエンクロージャーのトータルバランスのよさですね。これはもう独特のものだと思います。リジッドにがちにするとか、重量で押さえちゃうとか、そういう無共振思想とは相反する、むしろ楽器的なエンクロージャー。もちろん楽器的と言っても楽器そのものではないですから、その辺がコンセプトとしてもつくり方としても難しいところなんです。そこがともうまいと思うんです。単にある楽器の持つている帯域の中で共鳴する共鳴板とかいうものをスピーカーに取り入れると、まずいんですね。もつと広い帯域のいろいろなものを再生するのがスピーカーですから。その辺のトータル・コンセプトが非常にいいバランスの上に立っている。

振動する、いわゆる有響箱だけれども、決してそんなに濃い色合いをつけない。むしろ非常にさわやかで温かい。  
**小林** バランスのよさに気品がある。  
**菅野** そのとおりですね。確かにこれはやっぱり英国の代表的なスピーカーがずつと共通して持つてきた風格ではないでしょうか。気品のあるバランスのよさというのね。  
**小林** 本当に音楽好きがつくったというスピーカーですね。いいなあ。

**菅野** サイズも家庭の再生装置としてちょうどいい、さりげなく上質の音を聴くという目的にぴつたりのサイズだと思いますし、一番広くお勧めできるカテゴリーにあるスピーカーかもしれません。もちろん、ワイド・レンジのオーケストラの何とも言えないあの空気が動く響き、これを聴くには、やはりあんまり小さいと無理ですから、今我々がリアレンジで聴いているB&Wくらい大型のものが必要でしょうけれど、そこから替えても、

の足りなさがありませんよ。  
**小林** そうですね。それどころか、このハーベス独特の音のよさというのがあるって、そこにかえって満足感があります。やたら居心地がいい音なので。

**菅野** これは現代オーディオの音、という感じではないと思うんです。  
**小林** そうかもしれない。でも、昔のハーベスよりはずつとキレはいいですね。

**菅野** スーパー・トウイーターがついたり、そういう意味では非常にワイドレンジ化もされているので、明らかに物理特性の向上はある。だけど、音の持つている雰囲気というのは、現代オーディオの持つているシャープな、少し冷たい、そういうイメージと全然違う。まあ、これは古い新しいではなくて、僕はこの音も、ひとつのあるべき主流のものだと思ふんです。どうも最近のものはロマンと心がなくて。特性のずば抜けていても、何か無機質な冷たさがあつたりするもので。  
**小林** 何かやたら数字が出てくる音(笑)。  
**菅野** そうですね。それはちよつと考えるものだと思います。いくらオーディオにおいて、

技術、進歩が大事とはいっても。  
**小林** やはり聴くのは人間ですし。  
**菅野** 音楽を聴くんですから。これはもうそういう意味で、本当に心に優しい、はつとずる音だな。今日は偶然なんです、トライゴンのプリとパワーとこのスピーカー、価格バランスもすごくいいんです。決して安いとは言えないかもしれませんが、べらぼうな価格ではないです。これに同価格帯のプレーヤーを組み合わせると、図らずもすごくバランスのいいトータル・システムができますね。  
**小林** さりげなくしかも出てくるいい音がいい。すばらしいですね。

注：価格はすべて税込価格です。